

## 1-4 運用監視 1-4 Operations Monitoring

依田 優\*<sup>1</sup>  
Masaru YODA

### Abstract

The Data Processing Division monitors the operation of the Satellite Data Processing System (such as collecting satellite observation data and numerical forecast data) 24 hours a day, 365 days a year. It also prepares meteorological information products using the data it collects; and then it disseminates the information.

### 1. はじめに

データ処理課では、衛星データ処理システムで行っている衛星観測データ、数値予報データなどの収集及びそれらを使ってのプロダクトの作成・配信が問題なく進行しているか、24時間365日運用監視を行っている。

### 2. ジョブの実行確認と対応

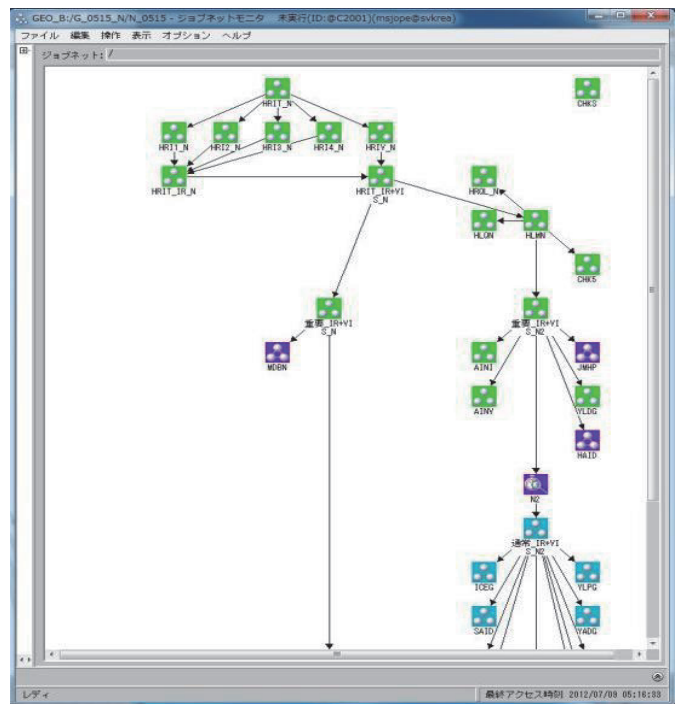
「AJS3-View のステータス監視」により、アイコン化した各ジョブの実行状況監視画面（図1参照）を表示し、各衛星プロダクトの作成・配信の進行状況を確認する。図1は、N\_0515（とN05W）（06Zに衛星風ベクトルを計算するための、北半球観測2回中1回目の処理状況モニタ）のジョブの実行状況を示している。

各アイコンの色は、黄緑色が正常終了、紫色が処理中、水色が処理待ちを示しており、異常終了（エラー）及び警告終了（ワーニング）が発生すると、それぞれ赤、橙色で表示する。

異常終了が発生した場合、ジョブの種類に応じたタイミングにより再実行を実施する。

1日で実行するジョブの総数は、衛星プロダクトにおける運用衛星（ひまわり7号）と、4個の極軌道気象衛星で約85,000個に達し、待機衛星（ひまわり6号）による高頻度雲観測を含めると、1日に確認するジョブ数は約190,000個、ログにして380,000行に達するため、ステータス監視画面を用いたGUIで確認を行う。

実行状況監視画面で、ジョブの異常を確認した場



[図1：JP1/AJS3によるジョブ実行状況監視画面]

合は異常（エラー）、警告（ワーニング）、警戒の詳細を表示している画面「JP1 Integrated ManagementのCentral Consoleの重要イベント監視画面」（図2参照）により詳細を確認する。これで実行したプログラムのリターン・コードや実行したシェル・スクリプトの内容などを確認できる。重大度カラムの異常と警告は実行した結果を示し、警戒はハードウェアの停止やネットワーク・トラフィック増加によるネットワークの機能低下などを示す。

\*<sup>1</sup>気象衛星センターデータ処理部 データ処理課  
(2013年1月25日受領、2013年5月20日受理)



#### 4. 運用室での監視風景

写真1は、データ処理課現業による運用室での監視風景である。通常の監視は2名で行い、1名（左）はステータス監視画面によるジョブの実行確認を、他の1名（右）は重要イベント監視画面により、ジョブの実行時に発生したエラーやワーニングの詳細を確認している。



[写真1：運用室での状態表示端末による監視風景]